



# ミズノ株式会社

## 第112期（2025年3月期）

### 第2四半期 決算説明資料

2024年11月8日

- ・この説明資料には、2024年11月8日現在での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。
- ・世界経済・競合状況・為替の変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。



- ✓ 売上高、各区分利益が過去最高
- ✓ 営業利益率、経常利益率が過去最高
- ✓ フットボールやインドアスポーツが国内外で好調、国内ではワークビジネスも好調
- ✓ 価格転嫁と在庫水準の適正化が進み、売上総利益率が改善

売上高  
利益

過去最高

売上高

1,196億円

前期比 +4.5%

過去最高

営業利益

112億円

前期比 +20.0%

過去最高

経常利益

113億円

前期比 +7.2%

過去最高

中間純利益

81億円

前期比 +4.1%

## 利益率

売上総利益率

41.3%

前期比 +1.6ポイント

過去最高

営業利益率

9.3%

前期比 +1.2ポイント

過去最高

経常利益率

9.5%

前期比 +0.3ポイント

中間純利益率

6.8%

前期比 △0.0ポイント

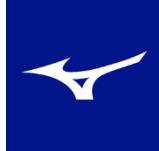


(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減額	増減(%)	業績予想	進捗(%)
売上高	1,145	1,196	51	4.5%	2,500	47.8
売上総利益	454	494	40	8.8%		
売上総利益率	39.7%	41.3%	1.6pt			
人件費	139	144	5	3.2%		
広告宣伝費	56	60	4	7.0%		
販管費	361	382	21	5.9%		
販管費率	31.5%	32.0%	0.5pt			
営業利益	93	112	19	20.0%	190	58.7
営業利益率	8.1%	9.3%	1.2pt			
経常利益	106	113	7	7.2%	205	55.2
経常利益率	9.2%	9.5%	0.3pt			
中間純利益	78	81	3	4.1%	150	54.0
中間純利益率	6.8%	6.8%	△0.0Pt			
為替レート	USD	135.99円	152.30円			
	GBP	177.07円	195.55円			
	EUR(欧州支店)	153.51円	165.47円			
	EUR(子会社)	147.00円	164.82円			

※人件費の項目は前年度までは給与手当・賞与のみの開示をしていましたが、本年度より福利厚生費等を含んだ人件費全体の開示へと変更しております



(億円)	FY23.2Q	FY23.4Q	FY24.2Q	対FY23.2Q 増減	対FY23.2Q増 減(%)	対FY23.4Q 増減	対FY23.4Q増 減(%)
<b>資産合計</b>	1,970	2,062	<b>2,108</b>	138	7.0%	46	2.2%
現金及び預金	240	320	<b>375</b>	135	56.2%	55	17.5%
受取手形及び売掛金	456	488	<b>451</b>	△5	△1.0%	△37	△7.6%
在庫	545	524	<b>522</b>	△23	△4.1%	△2	△0.5%
有形・無形固定資産	446	436	<b>457</b>	11	2.5%	21	4.9%
投資有価証券	80	95	<b>97</b>	17	20.6%	2	1.9%
繰延税金資産	17	17	<b>19</b>	2	8.0%	2	12.4%
<b>負債合計</b>	608	641	<b>585</b>	△23	△3.9%	△56	△8.8%
短期有利子負債	53	11	<b>31</b>	△22	△41.6%	20	184.9%
長期有利子負債	118	116	<b>102</b>	△16	△12.9%	△14	△11.6%
<b>純資産合計</b>	1,362	1,421	<b>1,523</b>	161	11.8%	102	7.2%

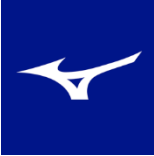


✓ 利益水準が向上し、EPS、PERが上昇

	FY23.2Q	FY24.2Q	前期比
総資産事業利益率(ROA)*1	4.8%	5.5%	+0.7pt
自己資本利益率(ROE)*1	6.0%	5.5%	△0.5pt
自己資本比率	68.8%	71.9%	+3.1pt
1株当たり利益(EPS)*1*2	304.38	316.62	+12.24
1株当たり純資産額(BPS)	5,304.14	5,926.55	+622.41

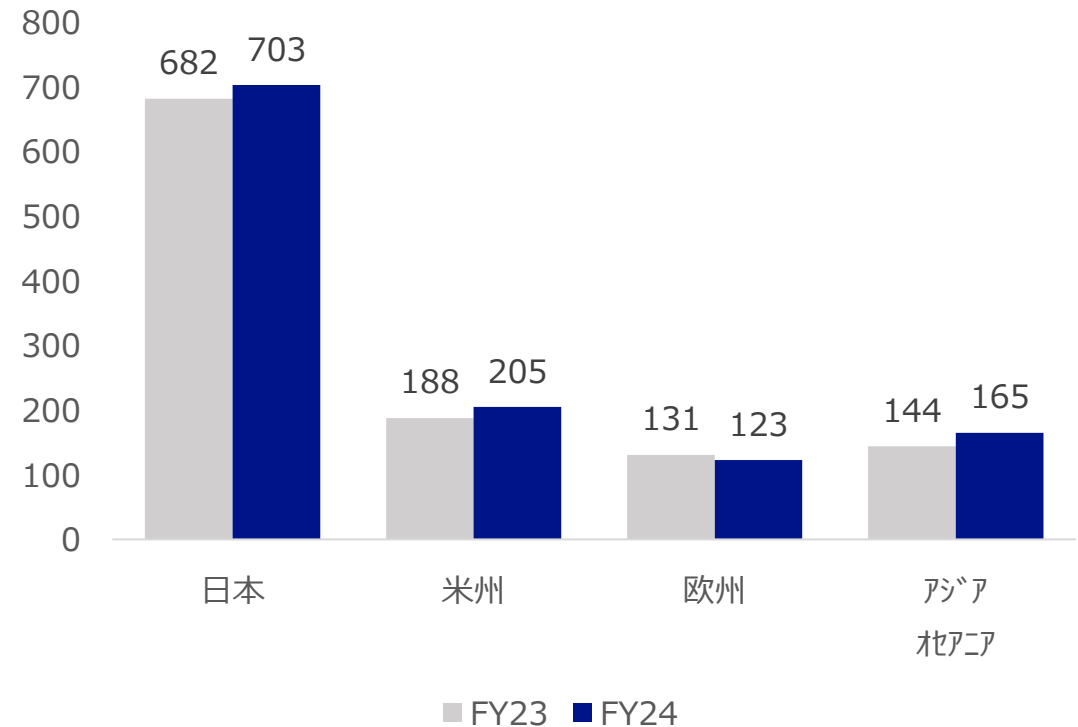
	FY23.2Q	FY24.2Q	前期比
株価収益率(PER)*3	7.79	14.37	+6.58
株価純資産倍率(PBR)	0.89	1.54	+0.65
基準株価(各年度9月末日)	4,740	9,100	+4,360

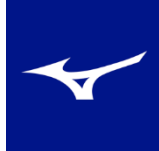
\*1 算定上の基礎となる事業利益（ROA）、親会社株主に帰属する当期純利益（ROE、EPS）には第2四半期時点の数値を使用しています。  
 \*2 1株当たり利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2024年9月30日現在の発行株式数（自己株式数を除く）を使用しています。  
 \*3 株価収益率は、基準株価/1株当たり利益×2で算出しています。



- ✓ フットボール、インドア等の競技スポーツ品、ライフスタイルシューズなどがグローバルで好調
- ✓ 国内でワークビジネスが成長
- ✓ 欧州ではフットウェアの売上総利益率が改善
- ✓ 海外売上比率 24年度2Q 41.2% (23年度2Q 40.5%)

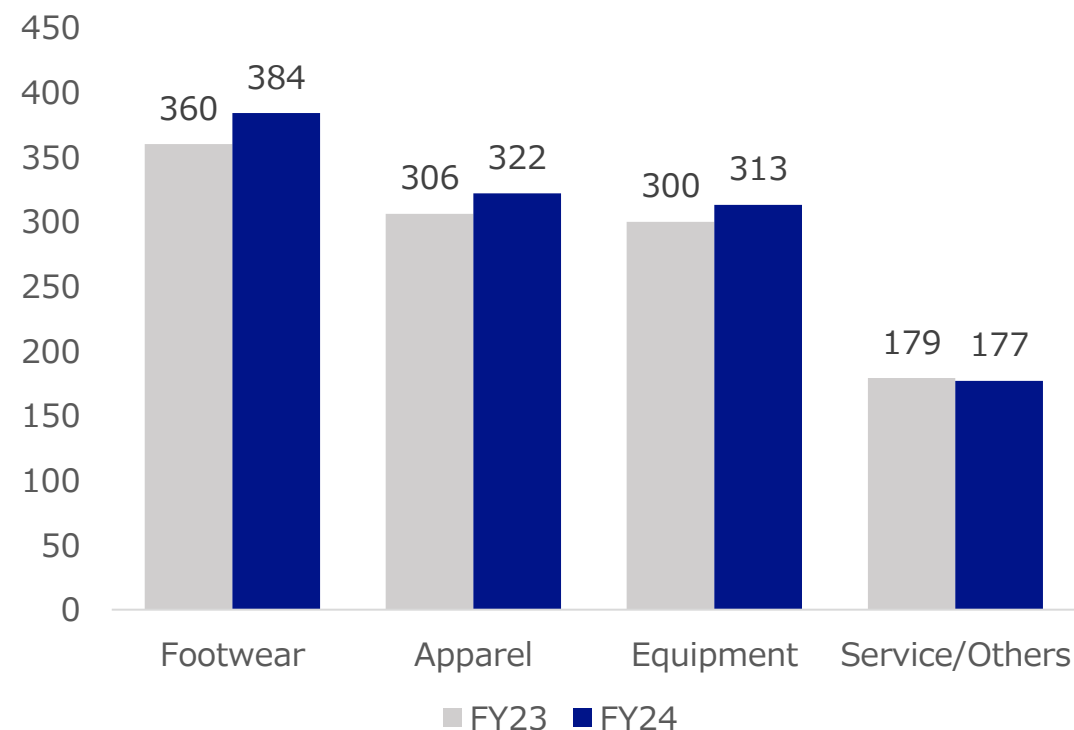
(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減	増減率 (%)
日本	682	703	21	3.1
米州	188	205	17	8.8
欧州	131	123	△8	△6.1
アジア・オセアニア	144	165	21	14.8
計	1,145	1,196	51	4.5

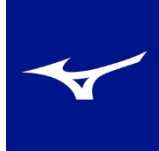




- ✓ フットボールシューズ、ライフスタイルシューズ等が成長
- ✓ チームスポーツ等でアパレルが伸長
- ✓ ゴルフ品が最大マーケットの北米で売上規模を維持

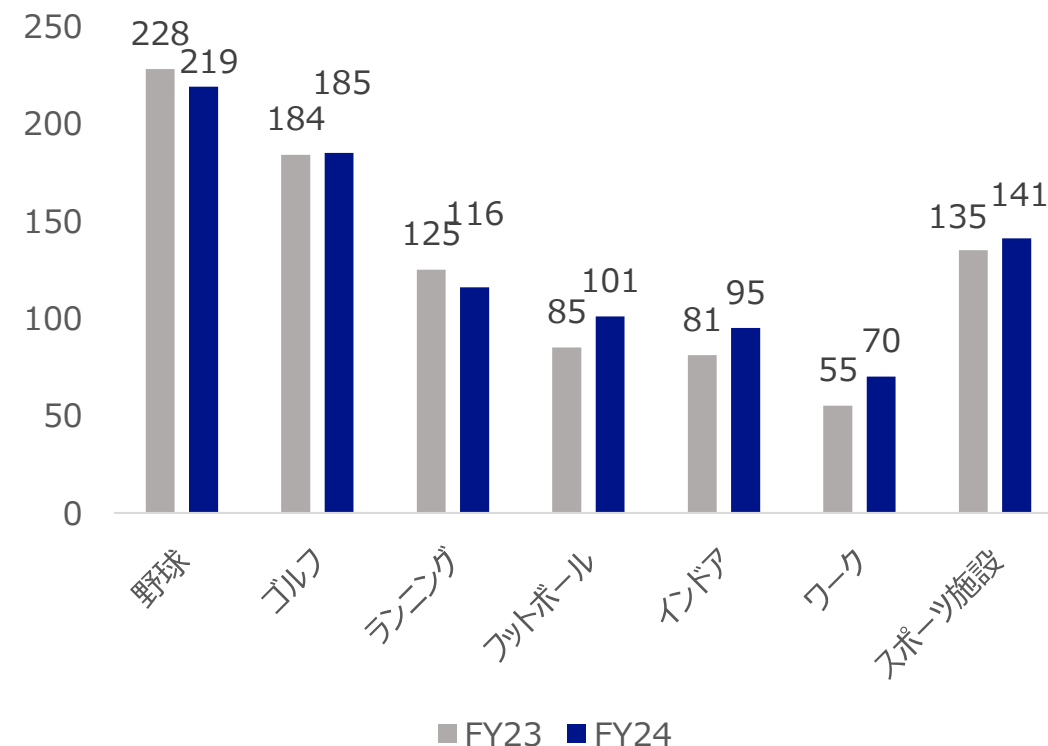
(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減	増減率 (%)
Footwear	360	384	24	6.8
Apparel	306	322	16	5.3
Equipment	300	313	13	4.1
Service/Others	179	177	△2	△1.1
計	1,145	1,196	51	4.5



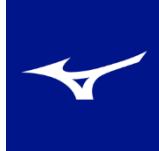


- ✓ フットボール、インドアなどの競技スポーツ品が好調
- ✓ ランニングは在庫適正化、収益性改善への取り組みを実施中
- ✓ 非スポーツ分野のワークが順調に成長

(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減	増減率 (%)
野球/ソフト	228	219	△9	△4.3
ゴルフ	184	185	1	0.7
ランニング	125	116	△9	△7.4
フットボール	85	101	16	18.3
インドア *1	81	95	14	17.4
ワーク	55	70	15	26.9
スポーツ施設	135	141	6	4.6

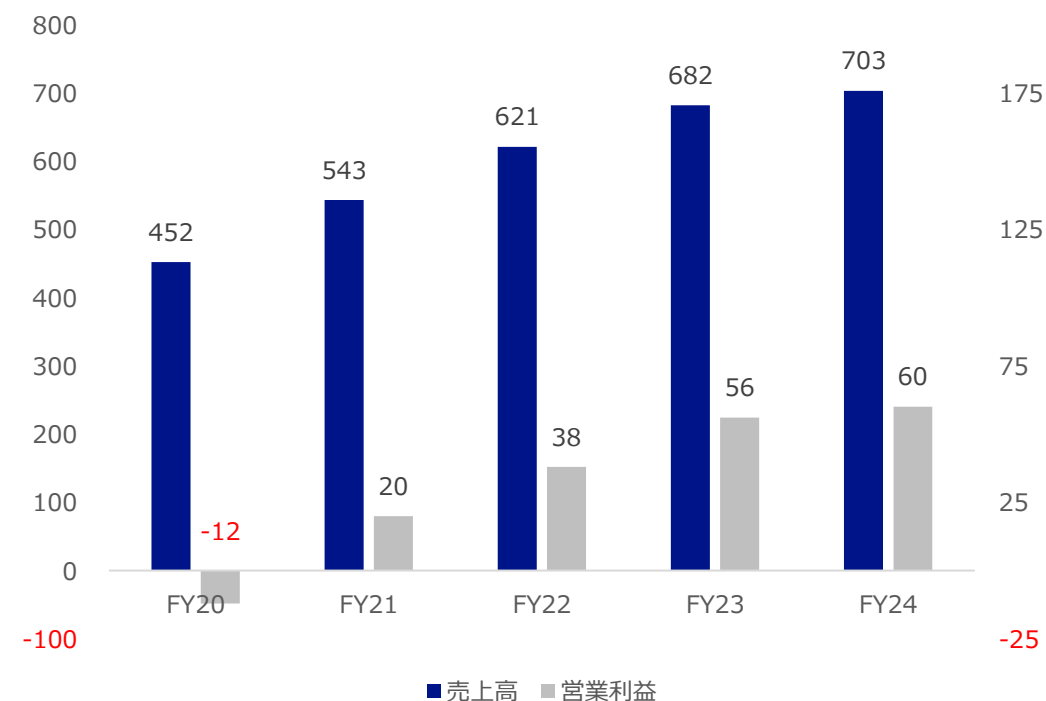


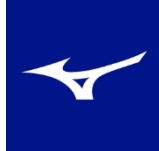
\*1 インドアカテゴリーには、バレーボール、バドミントン、卓球、バスケットボール等を含みます。



- ✓ 売上、営業利益が過去最高
- ✓ バレーボール、ラケットスポーツ等の競技スポーツ品が好調
- ✓ フットボール品の売上が引き続き高水準
- ✓ 非スポーツ分野のワークやライフスタイルシューズが順調に成長

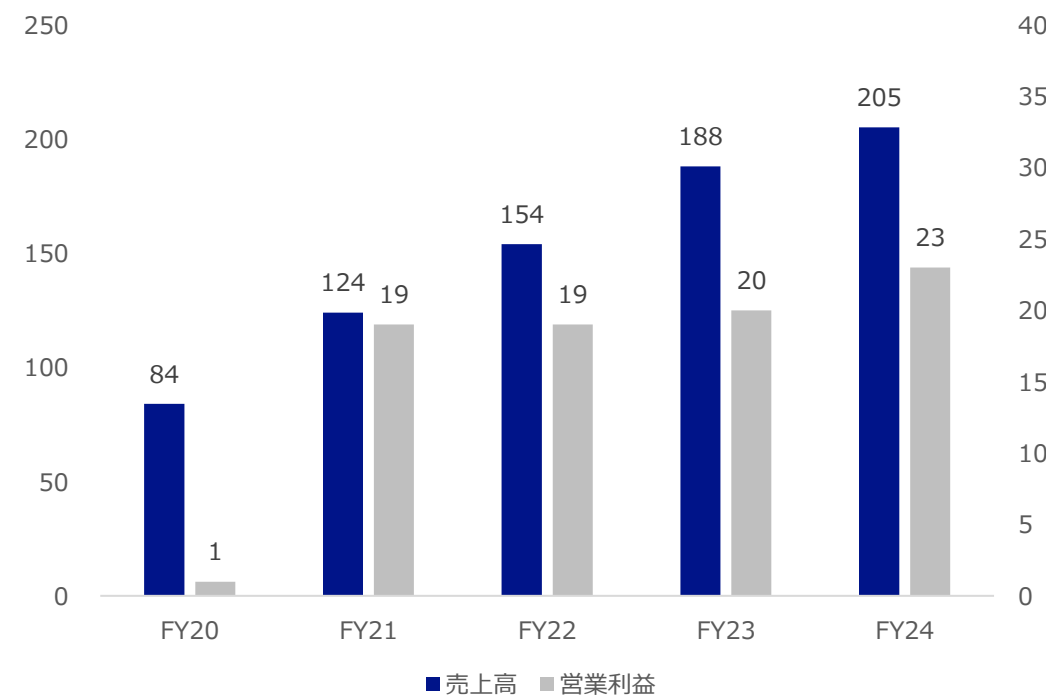
(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減	増減率 (%)
Footwear	159	176	17	10.9
Apparel	230	234	4	1.9
Equipment	115	117	2	1.5
Service/Others	178	176	△2	△1.2
計	682	703	21	3.1

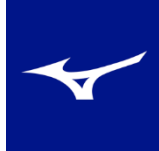




- ✓ 売上、営業利益が過去最高
- ✓ ゴルフ品の販売が高水準を維持
- ✓ 在庫水準が改善し、収益性が向上

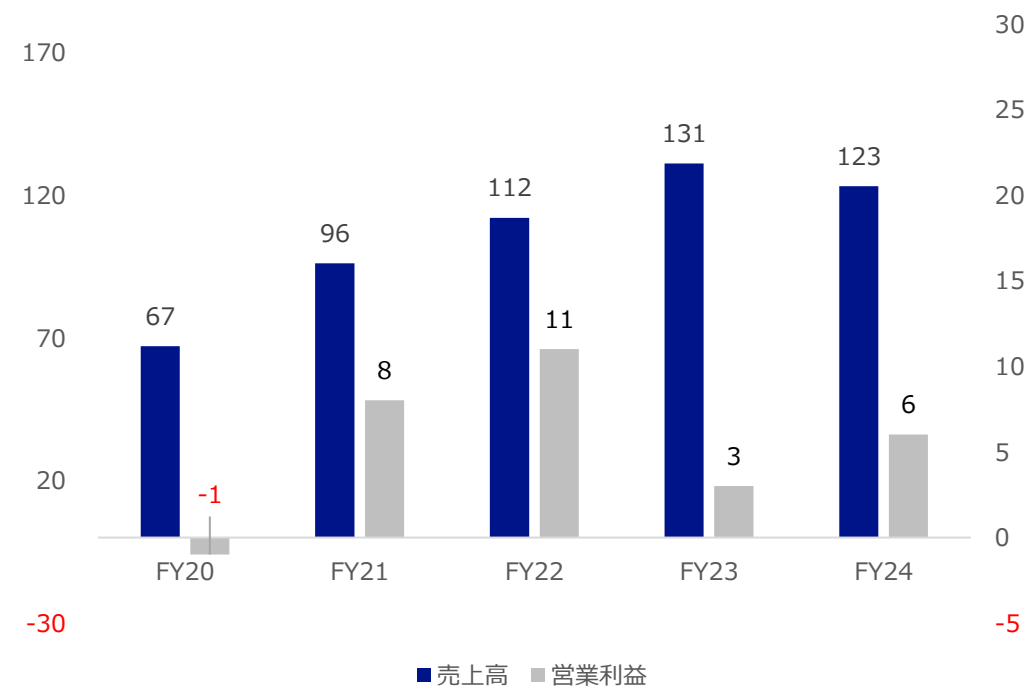
(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減	増減率 (%)
Footwear	45	48	3	5.7
Apparel	26	28	2	10.0
Equipment	117	128	11	9.7
Service/Others	-	-	-	-
計	188	205	17	8.8

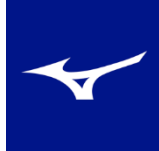




- ✓ 減収ながら売上総利益率が改善し増益
- ✓ フットボールやインドアスポーツが好調
- ✓ ライフスタイルシューズの販売が伸長
- ✓ ランニングシューズは売上が減少するも収益性が改善

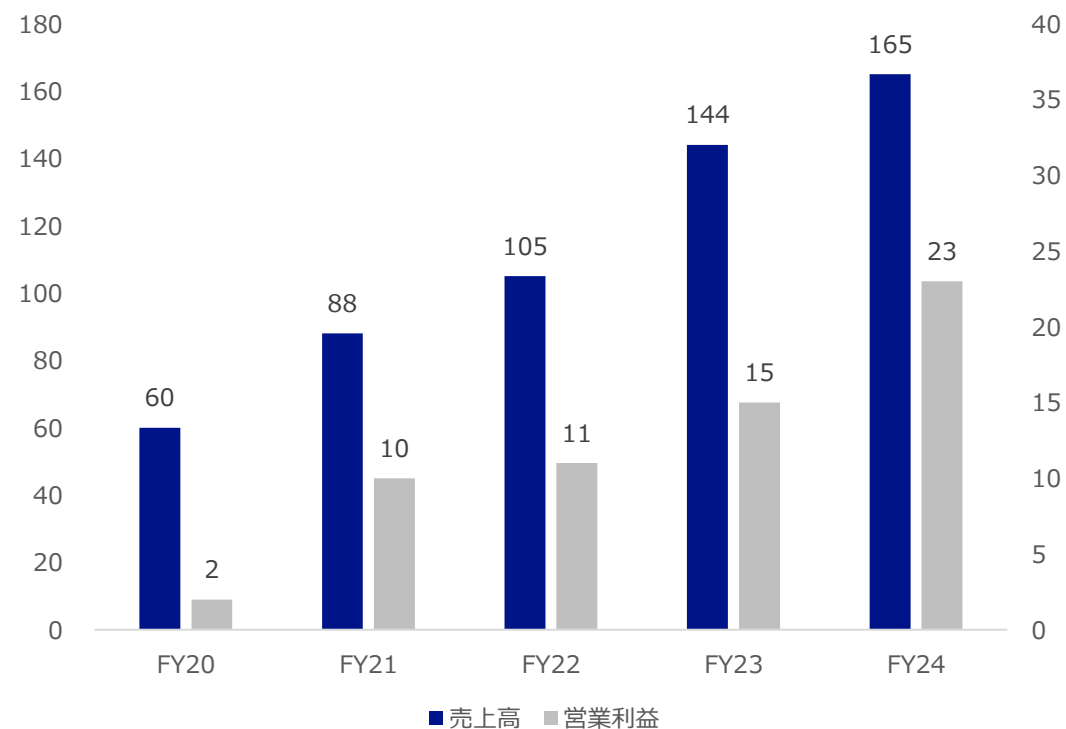
(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減	増減率 (%)
Footwear	90	81	△9	△9.8
Apparel	20	22	2	5.2
Equipment	21	21	△0	△1.1
Service/Others	-	-	-	-
計	131	123	△8	△6.1

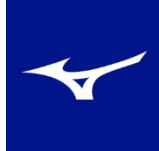




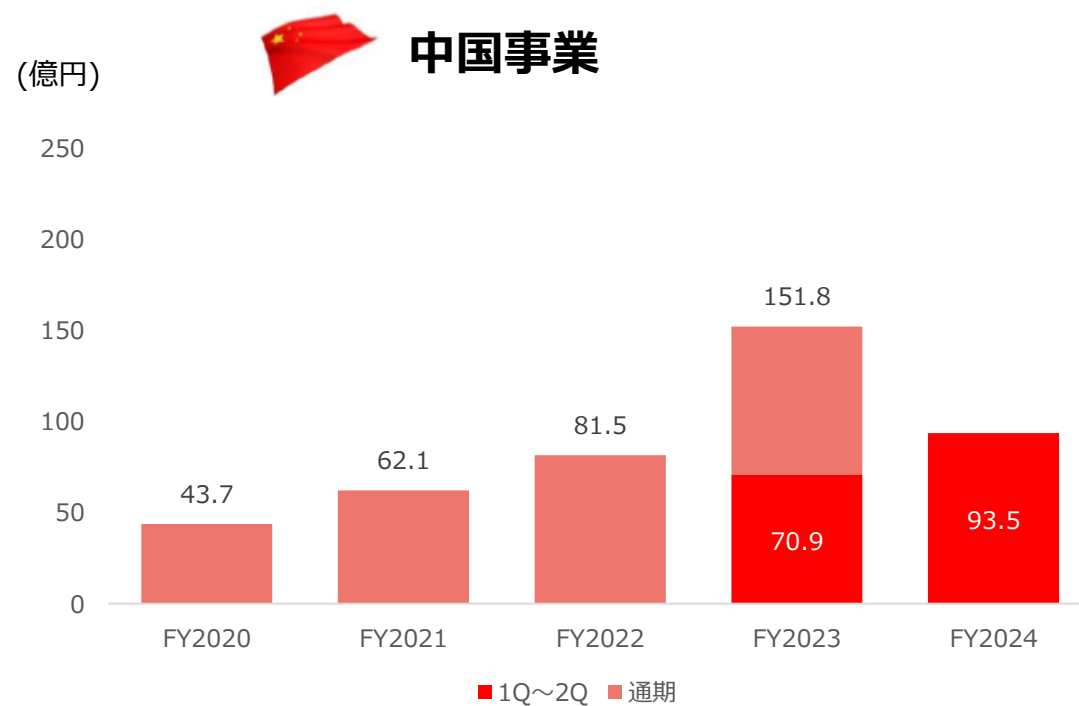
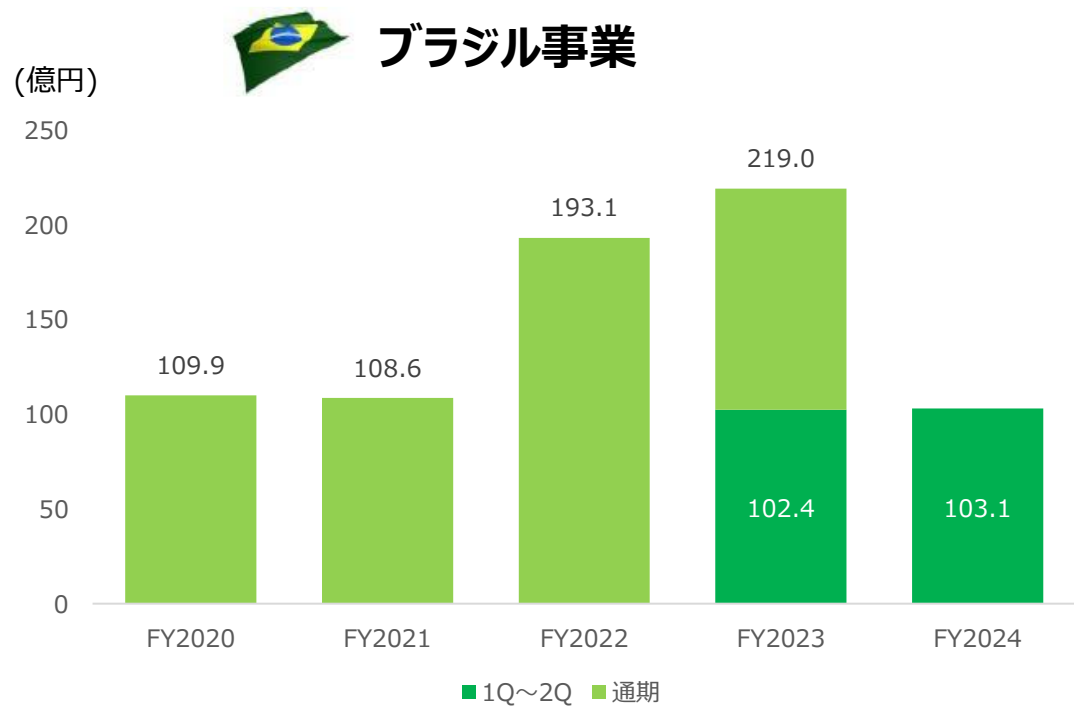
- ✓ 売上、営業利益が過去最高
- ✓ 韓国、東南アジアでフットボールが好調
- ✓ バドミントン等のラケットスポーツやバレーボール等、インドアスポーツ品の販売が拡大
- ✓ ライフスタイルシューズの販売が増加

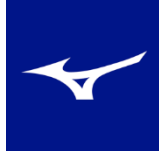
(億円)	FY23.2Q	FY24.2Q	増減	増減率 (%)
Footwear	65	78	13	20.6
Apparel	30	38	8	27.9
Equipment	49	47	△2	△1.2
Service/Others	-	1	-	-
計	144	165	21	14.8





- ✓ ブラジル、中国の両国は、市場のニーズにより早く的確に応えるため  
現地有力企業へ販売権を付与しロイヤリティを得ている
- ✓ ブラジルではフットウェアを中心に事業を展開
- ✓ 中国では、2019年に商品カテゴリを絞って現地企業へ販売権を付与し順調に成長

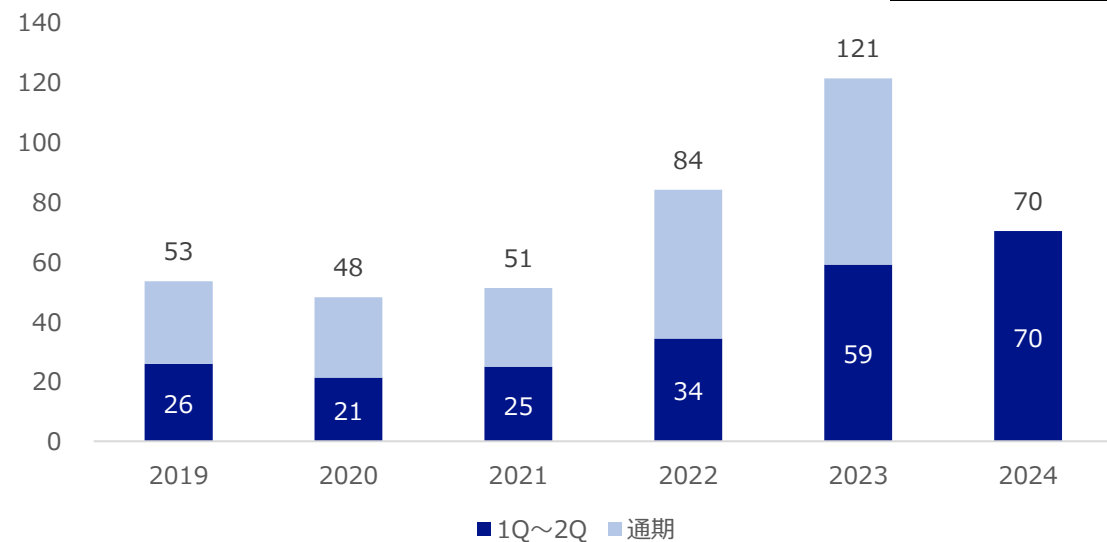




- ✓ グローバルでの注力カテゴリーであるフットボールシューズとライフスタイルシューズが順調に成長
- ✓ フットボールは国内での高水準な売上加え、欧州、東南アジアを中心に海外でも二桁成長
- ✓ ライフスタイルシューズが国内、欧州、アジア・オセアニアで成長

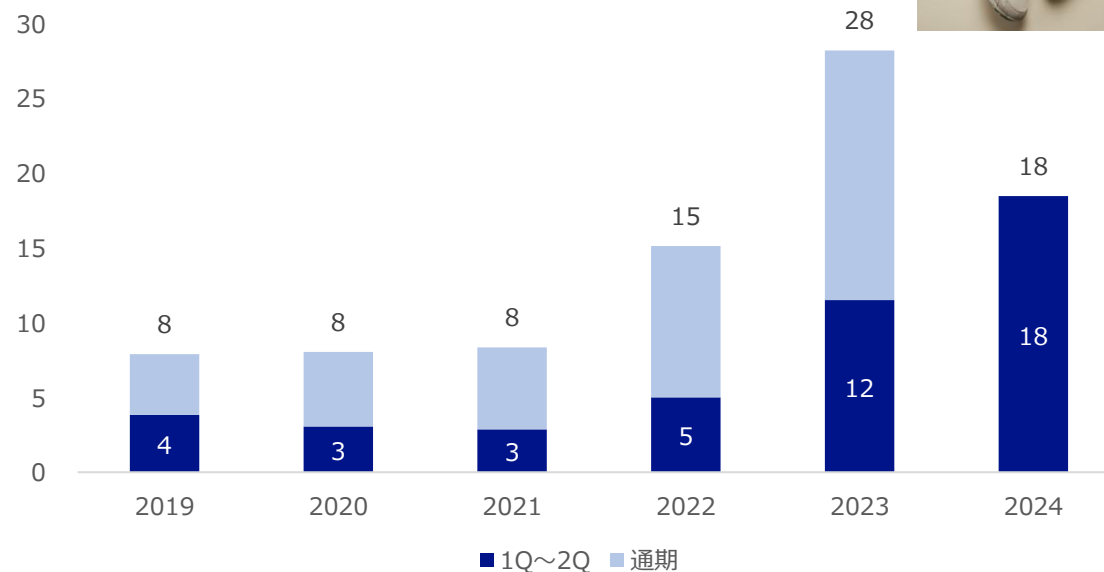
(億円)

フットボールシューズ(サッカー)売上



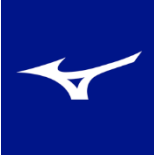
(億円)

ライフスタイルシューズ売上





# マーケティングトピックス



- ・ブランドアンバサダーMLBで活躍。ラース・ヌートバー選手とブランドアンバサダー契約締結。
- ・学生野球の聖地、神宮外苑に野球品メインの直営店オープン。
- ・可動域を拡げ、球速がUPするベルト「イージーゲインベルト」発売。
- ・世界野球WBSCプレミア12 ファン向けグッズ11月発売。盛り上がり期待。



平田 憲聖 プロ



杉浦 悠太 プロ

©JGTO images



JPX925アイアン



Mizuno Pro 241 アザリア リミテッドエディション

## ・ブランドアンバサダーの活躍

国内男子JGTOツアー 平田憲聖プロ4勝、杉浦悠太プロ日本プロゴルフ選手権優勝。

ABEMAツアー4名優勝、ステップアップツアーで1名優勝 (11/8時点)。

・グローバル売上高19年上期比179.1%。グローバルモデル「JPX925アイアン」シリーズ4機種投入。限定モデル「Mizuno Pro 241 アザリア リミテッドエディション」海外で完売。



セルヒオ・ラモス選手

オンラインコミュニティ：ミズノフットボールクラブ



S.S.ラツィオ



VfLボーフム

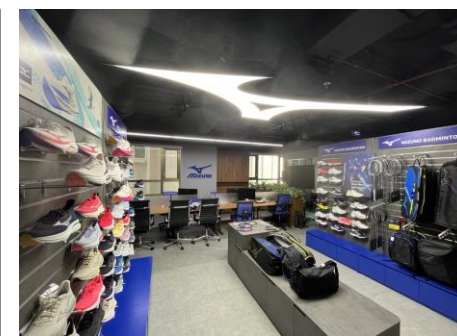


アウクスブルク



ハンザ・ロストック

- ・日本製TOPモデルの好調要因を受けてボリュームゾーンの「モナルシーダ」の市場浸透。
- ・日本ではジュニア、中高部活生、大学生を中心に高い支持。各種全国大会で着用シェア1位。
- ・継続的なグラスルーツ活動とオンラインコミュニティを活用したブランドロイヤリティの向上。
- ・欧州選手、クラブチームの活用で海外市場でも成長へ。



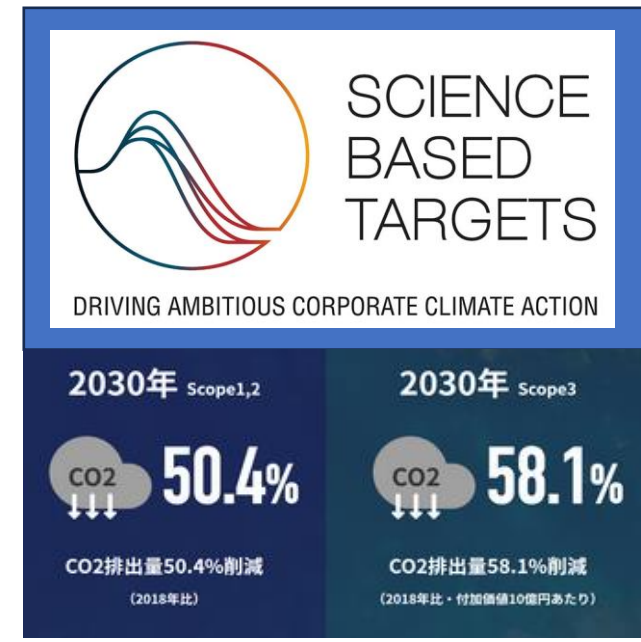
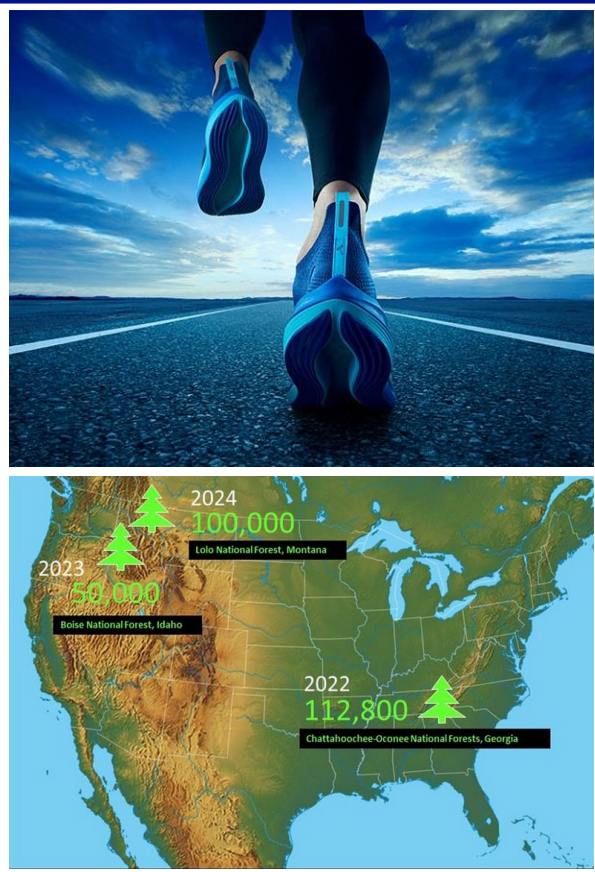
- ・バレーボール: Volleyball World契約活用しVOLLEYBALL NATIONS LEAGUEなどの世界大会で、リアルとデジタルのプロモーション実施。MUGEN PROMOTION関連商品の販売好調。**
- ・バドミントン: デジタル、グラスルーツ活動などオン/オフラインコミュニケーションで商品力浸透。東南アジアで現地法人設立。さらなる売上増を目指す。**



- ・ダウンを超える温かさを実現した『テックフィルブレスサーモ』を開発。冬向け商品展開に。
- ・ライフスタイルシューズ成長継続。藍師・染師『BUAISOU』、ドイツのセレクトショップ、パリのスニーカーショップなど多数とコラボ。グローバルで話題となる仕掛けづくりを実施。
- ・ワークビジネス事業好調。産業用ヘルメットや小売業・清掃業向けシューズなどアイテム拡大。



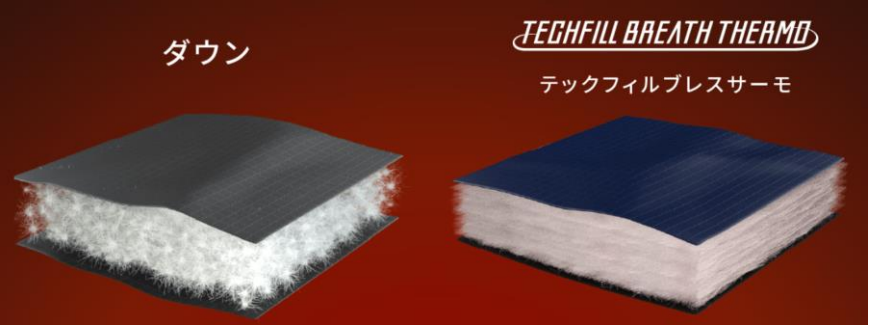
# サステナビリティへの取組



- ・「ミズノネオビスタ」機能性と環境負荷低減の両立を実現。商品ライフサイクル全体で排出されるCO<sub>2</sub>の吸収を目的に、植林活動を継続。今期、約10万本の植林を実施。取組開始の2022年から、累計で約26万本の植林。
- ・JR東海と共同開発第2弾。新幹線開通60周年記念、新幹線再生アルミバット0系デザイン発売
- ・温室効果ガス排出削減目標がSBTi認定を取得。

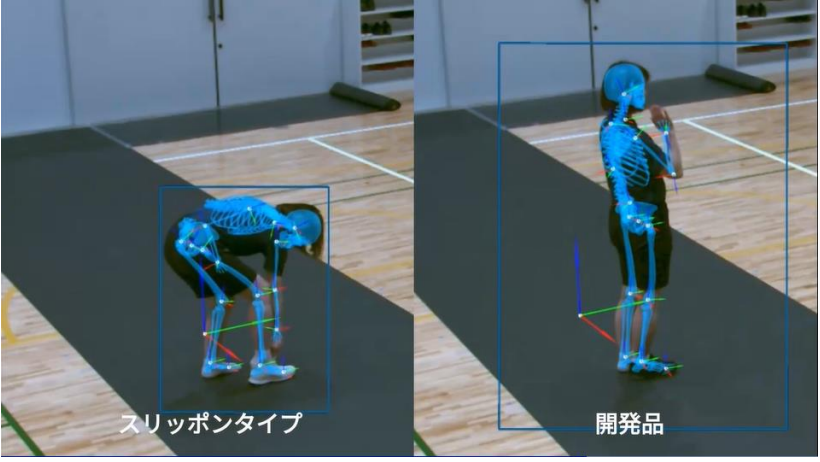


# 高付加価値商品を生む研究開発

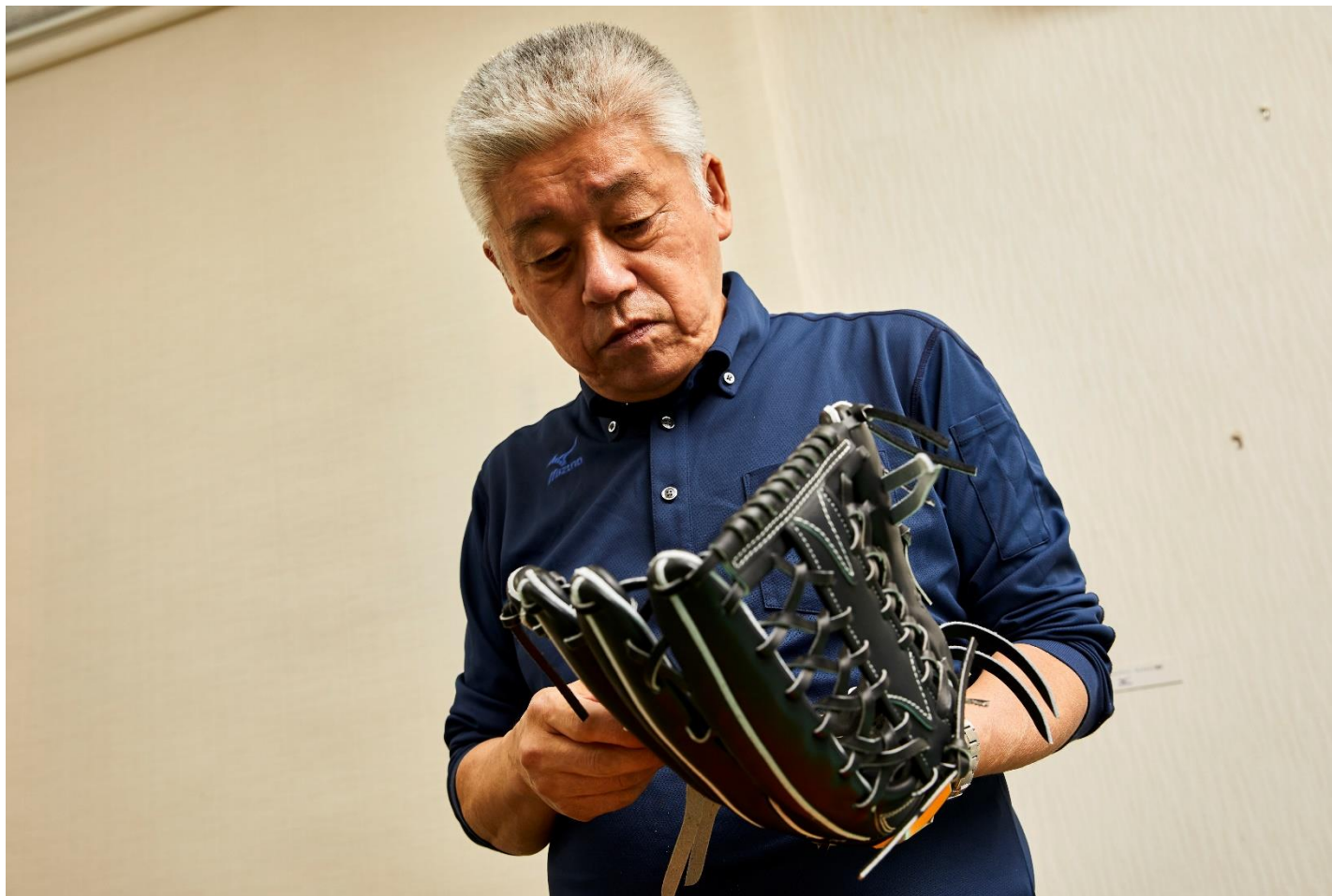


	無し	今回の DRY AEROFLOW RAPID
可視光画像		
赤外線画像		

※可視光および赤外線画像による透け感の比較図



- ・ダウンより温かく、濡れても保温性が低下しにくい保温力のある素材『テックフィルブレスサーモ』。
- ・スポーツの汗処理と社会課題の盗撮防止を両立する生地『ドライエアロフローラピッド』。
- ・猛暑対策として、効率的なクーリング設計『COOLING BODY MAP』。ワーク品に採用。
- ・腰の屈みが少なく手を使わず履ける「着脱性」と「フィット性」二律背反を両立させた『MEasy』。



・野球・ソフトボールのグラブ作りマイスターの岸本耕作、厚生労働省より2024年の「卓越した技能者（現代の名工）」に認定を受ける。これまでイチロー氏、松井秀喜氏など数多くのプロ野球選手のグラブを製作（11月8日14時発表）



- ✓ 売上、各区分利益、利益率が**過去最高を更新**
- ✓ 事業拡大に注力している**フットボールが順調に成長**
- ✓ **ライフスタイルシューズの成長が加速**
- ✓ **非スポーツ分野のワークビジネスが持続的に成長**